

カートメル宣教師らのお墓を探して

カナダ合同教会引退牧師 有賀 誠一

はじめに

京都で生まれ育った私にとって、東洋英和という学校は長い間、遠い存在でした。祖父母の代からのキリスト教の家庭でしたので、東洋英和がミッションスクールであることは早くから知っていましたが、まだ新幹線のない時代に京都の一青年が東京の可愛い英和生に出会うチャンスなど、残念ながら皆無でした。ですから、半世紀後に、今や老骨となったその青年が突然東洋英和と関わるようになったのは、運命の悪戯でしょうか、それとも神様の深い御旨によるものでしょうか。

センテナリー教会副牧師就任

2004年9月のことでした。それまで単身赴任していたカナダ西海岸にあるブリティッシュコロンビア大学のチャプレンを辞任して家族の住むオンタリオ州ハミルトン市に戻った私は、旧友であるウェイン・アーウィン牧師の奨めで、彼が主任牧師をしているセンテナリー教会の副牧師になりました。そのときにアーウィン牧師はセンテナリー教会と東洋英和との歴史的な繋がりを説明して、「どうしたら東洋英和との関係をもっと深めることができるだろうか」と、私の意見を求めたのです。

彼はすでに衛藤院長時代に東洋英和を訪問す

るなど、積極的に関係強化を心がけていたのですが、「カナダ人の僕は日本語が話せないし、日本人の気持も深くは理解できない」と謙虚に自認すると同時に、「日本人の君になら、名案があるだろう」と勝手な想像をしていました。残念ながら東洋英和のこともマーサ・カートメル宣教師のこともほとんど知らなかった私に名案などありませんでしたが、とりあえず、「東洋英和の生徒や卒業生が毎年センテナリー教会を訪ねてくるのなら、当然ミス・カートメルのお墓参りもするのだろうね」とたずねたところ、「え、そんなことは聞いたことがないが、お墓ってそんなに重要なかい？」と逆に質問されてしまいました。

ミス・カートメルのお墓探し

センテナリー教会を大切に思う東洋英和の人達がカートメル先生のお墓に関心がないとは想像し難いことでした。私の説明を聞いたアーウィン牧師は、「お墓の所在は東洋英和も知らないようだが、君が言うように、日本人にとって創立者のお墓がそんなに重要なものなら、二人して探そうじゃないか」と言ってくれましたので、古い書類を調べたり、晩年のミス・カートメルを知っていた人達に訊ねたりして、教会から数キロメートルのところにある「ハミルトン



ミス・カートメル



センテナリー教会（ハミルトン市）



ハミルトン市営墓地入口



ジェームズ・カートメル
(ミス・カートメルの父)の墓



サザランド家の墓碑
(手前：2005年に設置されたミス・カートメルの墓石)

ン墓地」に埋葬されたことを突き止めました。

さっそく墓地へと車を走らせたアーウィン牧師と私は、正確な区画を墓地事務所に教えてもらったものの、何処を探してもマーサ・カートメルの墓石が見当たりません。それでも、ミス・カートメルの家系についての知識のあったアーウィン牧師は「これはマーサの父親の墓に違いない」「これは母親に早逝されたマーサを引き取った伯母さんの嫁ぎ先、サザランド一族の墓碑だね」などと言いながら墓石を一つ一つ確認していきましたが、夕方になってもマーサ・カートメルの墓石は見つかりません。「墓地事務所の勘違いで、ひょっとしたら別の場所に葬られているのかも」と考えたりもしましたが、もう墓地事務所も閉まっていたので確かめることもできず、その日は諦めて家に帰りました。

翌朝早く教会へ出かける途中でハミルトン墓地に寄り道した私は、前日に見つけたサザランド一族の墓碑の側面に刻まれている人達の名前を一つ一つ調べることにしましたが、沢山の名前が刻まれていて、サザランド家のことを知らない私には面倒で退屈な作業でした。「もう諦めて教会へ行くか」と思い始めた、そのときに突然、朝日がさっとその墓碑の一部分に光を投げかけ、そこに刻まれている「マーサ・カートメル」という文字を鮮やかに浮き彫りにしたのです！

「あった！」背筋に戦慄が走るほどの感激を覚えた私は、無我夢中で教会へ走り込み、アーウィン牧師に報告しました。「それは良かったね」という彼に、「でも、マーサ・カートメルの墓石はなさそうだよ」と言うと、「それじゃ、僕

たちで建てればいいじゃないか。君、やってくれよ。費用はなんとかなるさ！」と、いとも簡単にそのプロジェクトの実行を私に指示したのです。

ミス・カートメルの墓石建立まで

墓石を建立することは決めたものの、その前途に思わぬ障害が待っていました。墓地事務所が、「サザランド家と関係のない者が親族の了解なしに墓石を建てることは認められない」と通告してきたのです。言われてみれば至極もつともなことでしたが、墓地を見つけるだけでも結構大変だったのに、こんどはサザランド家の末裔探しかと、一時は意気沮喪してしまいました。でも、神様はちゃんと道を備えて下さったのです。

「ダメだ」と言われた数日後に、墓地事務所がまた電話してきました。「今日、サザランド家の末裔だという人がトロントからサザランド家のお墓を調べにきました。この人に相談されたいかがですか」という親切な助言。飛び上がる思いでアーウィン牧師夫妻と私は即刻トロントに車を走らせ、カートメル先生の従兄の曾孫にあたるドン・クロス氏に面会。私たちの希望を伝えたところ、「そんなに素晴らしいことを考えていただいて、こちらこそ感謝感激です。親戚一同からの了解は私が責任をもって取りまますから、遠慮なく計画を進めて下さい」という、願ってもないお答えをいただき、意気揚々とハミルトンに帰ってきました。

この経過を東洋英和にお伝えしたところ、船本院長も大変喜んでくださり、学院として建立



サザランド家の墓碑のマーサの部分



ミス・カートメルの墓石

費の半額を負担してくださることになりましたので、いよいよ墓石建立計画を実行に移す段階になりました。墓石には英語と日本語の両語を入れることにし、院長先生に「東洋英和女学院創立者 マーサ・カートメル」と揮毫していただきました。

やがてクロス氏から、サザランド家の末裔23家族から集めてくださった了解書が送られてきましたが、それにはご親族の皆さんからの感謝献金まで添えられていて、アーウィン牧師と私は、想像もしていなかったご親族のご好意に感激するとともに、「この墓石建立計画は神様の御旨に叶ったことだったのだ」という確信を新たにし、深い感謝の祈りを捧げたのです。

2005年7月31日、センテナリー教会での記念礼拝は、東洋英和のみならず山梨英和や静岡英和の代表、同窓生、元宣教師、カナダ合同教会の代表、さらにカートメル先生のご親戚20数名の参加を得て、深い感動を持って守ることができました。昼食のタイ料理も美味しく、午後のハミルトン墓地での除幕式にも多数の方々が参加され、恵まれた一日でした。

墓石建立計画の完了を汐に私は牧師引退を決意し、アーウィン牧師も数年後に引退しましたが、カートメル先生のお墓は引き続き東洋英和

2005年7月31日
ミス・カートメルの墓石の除幕式



校歌を歌う英和生（カナダ学習旅行参加者）



有賀誠一牧師（左）とアーウィン牧師（右）
（ミス・カートメルの墓石の前にて）



ドン・クロス氏
（サザランド家の子孫。ミス・カートメルの墓石建立の時にサザランド家のまとめ役を務めただけでなく、ミス・カートメルのトランクを英和に寄贈するためにも助力してくださった）

からの維持献金とセンテナリー教会の手によって維持管理されています。カナダを訪れる英和関係者の方々が無理をしてもカートメル先生の墓参を旅程に組み込んでくださっているのを見るたびに、「神様のなさることは時に叶って美しい」という聖書の言葉を思い起こして感謝しております。



ミス・ハミルトン



中央：ミス・マシューソン
(左から長浜ツネ、景山暁美、斎藤純子、丸山民子、鷗沼幸の各先生方 1957年)



ミス・ハミルトンの墓



ミス・マシューソンの墓 (両親の名の側)

ミス・ハミルトンのお墓探し

さて、カートメル先生の墓石建立を終えて一旦は「楽々隠居」を決め込んだつもりでしたが、ある日英和同窓生の一人から「ハミルトン先生のお墓を探しているのですが、見つかりません。助けてくださいませんか」という依頼が舞い込み、またまたお墓探しをすることになりました。

ハミルトン先生は、センテナリー教会から2000kmも離れた、カナダ東部にあるプリンスエドワード島(州)のご出身で、私が以前に教員をしていたマウントアリソン大学の卒業生だということでしたので、最初はその方面を探索したのですが糸口が見付からず、途方にくれていたところ、カナダ合同教会資料館の司書が「こんなのが見つかったわ。参考にならない?」と言って5cm角の新聞の切り抜きを見せてくれました。それはハミルトン先生の死亡公告で、そこに記載されている葬儀社はセンテナリー教会から東に30kmしか離れていないビームスビルという小さな町にありました。電話をすると、「ああ、ガートルード・ハミルトンの墓ならこの町の墓地にありますよ。ヘレン・ハードの墓と一緒にいます」という答え。すぐに車に飛び乗って冬の道を一路ビームスビルへ。墓

地の所在はすぐにわかりましたが墓石はなかなか見つかりません。田舎の墓地ですから墓地事務所もありません。聖霊の導きを期待しつつ端から順に墓石を見ていくと、ありました!でも、そのチョコレート色の墓石には苔が生え、汚れてもいましたので、車に積んであったペットボトルの水で汚れをとり、写真を撮って帰宅しました。

お墓探しはこれで終わりかと思ったのですが、神様はまだ私を解放してくだされませんでした。2010年に出版された『カナダ婦人宣教師物語』に深い感動を覚えた私は、それ以後も「何故こんなことをしているのだろう。だれに頼まれたわけでもないのに」と自問自答しながらも、駆り立てられたようにオンタリオ州南部に葬られていると思われる婦人宣教師のお墓を探し続けました。そして、そのたびに思いがけない人達との出会いを経験し、この一連のお墓探しも神様の深い御旨によるものであることを悟られたのです。

ミス・マシューソンのお墓探し

マシューソン先生(注)のお墓を探したときのことです。先生の出身地リッジウェイの町にある新旧二つの墓地のどちらにもマシューソン

カナダ全図（☆印が本文該当地域）



お墓所在地（概念図）



墓地一覧

名前・生没年	墓地名	墓地の場所
マーサ J.カートメル Martha Julia Cartmell 1845.12.14 - 1945.3.20	ハミルトン市営墓地 (Hamilton Cemetery)	オンタリオ州 ハミルトン 777 York Blvd., Hamilton, Ontario
F.G.ハミルトン Frances Gertrude Hamilton 1888.8.17 - 1975.3.16	マウント オズボーン墓地 Mount Osborne Cemetery	オンタリオ州 ビームズビル 4220 William St., Beamsville, Ontario
ミルドレッド E.マシューソン Mildred Evelyn Mathewson 1908.3.29 - 1986.11.29	リッジウェイ メモリアル墓地 Ridgeway Memorial Cemetery (New Cemetery)	オンタリオ州 リッジウェイ Ridgeway Rd. at Farr Ave., Ridgeway, Ontario

姓のお墓はありましたが、肝心のミルドレッド・マシューソンの名前が見あたりません。町の教会にも歴史資料館にも記録がありません。夕方になり、最後のマシューソン姓の墓石にもミルドレッドの名前がなかったの、諦めて帰ろうとしたときに突然、「裏に廻ってみなさい！」という声が心の耳に響いたのです。

日本と違って墓石の裏側に名前を彫るという習慣のないカナダですから、その時まで墓石の裏を見るなんてことは考えもしなかった私はビックリして、ともかく裏に廻ってみました。なんと「娘、ミルドレッド・E・マシューソン」という名が鮮やかに刻まれているではありませんか。表側にあったのはご両親のお名前だったわけですが、そんな知識を持ちあわせていなかった私は一瞬のことで見逃して帰ってしまうところでした。いま思い返しても不可思議な体験でしたが、聖霊の働きだったとしか考えられません。ただ感謝！でした。

後日、お世話になった歴史資料館に墓石発見を報告に立ち寄ったところ、そこに居られた老婦人が、「私は中学生のときにミルドレッドの紹介で英和生とペンパルになり、今も文通していますよ」と言って、現在アメリカにお住まい

のペンパルさんの名前を教えてくださいましたが、なんと、その方は東洋英和と深く関わりのあった一族のお嬢さんであったばかりか、ニューヨークの神学校で私の姉と同期だった方でした。ここにも東洋英和と私を繋ぐ神様の不思議な導きがあったことを、深く感謝している次第です。

おわりに

サンダース先生やネトル先生のお墓についても、同様の不可思議な体験がありますが、もう紙面も尽きました。8年前まで東洋英和と何の関係もなく、カートメル宣教師の名さえ知らなかった私が、いつのまにか自然に「カートメル先生」「ハミルトン先生」と呼ぶようになったのも、宣教師たちの信仰を継承した東洋英和に私の心が繋がったからでしょう。神の栄光を讃えつつ、この稿を終らせていただきます。ありがとうございました。

（注）マシューソン先生：1936年～1938年、1948年～1960年東洋英和（中高・短大）在職。詳細は『カナダ婦人宣教師物語』 p.110-111

〔編集部より：ミス・サンダースとミス・ネトルのお墓探しについても執筆をお願いしましたので、次号に掲載いたします。〕

〈資料紹介〉 22

東洋英和女学院大学共同研究助成報告書：

- I 「カナダ・メソジスト婦人宣教師による日本における幼児教育事業に関する資料収集・調査研究2002-2004」 編著：石津珠子、飯島千雍子、伊勢紀美子、2005年、東洋英和女学院大学 153頁
- II 「カナダ・メソジスト婦人宣教師が拓いた東洋英和女学院の保育・保育者養成の特性の検証2008」 編著：飯島千雍子、石津珠子、2009年、東洋英和女学院大学 104頁
- III 「カナダ・メソジスト婦人宣教師が拓いた東洋英和女学院の保育・保育者養成の特性の検証II 2009」 編著：飯島千雍子、石津珠子、2012年、東洋英和女学院大学 79頁

石津珠子

本書3件は、3期にわたる本学の共同研究助成（1期：代表 石津珠子、2・3期：代表 飯島千雍子）を受けてすすめてきた、カナダ・メソジスト婦人宣教師の日本における幼児教育事業に関する研究・調査の成果報告集である。

ここに収集された資料研究、調査報告は、今後の基礎研究となることをめざして、できる限り記録に徹するとの考えでなされている。また今後の婦人宣教師、カナダ・メソジスト、カナダ合同教会研究のための資料として提供できることを願って作られた。

共同研究の発端

カナダ・メソジスト婦人宣教師、ミッション(Woman's Missionary Society 以下 WMS)によるわが国における活動は伝道・教育・福祉という領域において展開された。もとよりカナダ・メソジスト教会の活動であり、やがて支持母体がカナダ合同教会に移っても、活動領域は変わらずに続けられたのであった。

そこに特筆すべき点として三点あげられる。第一に東洋英和女学院(1884年創立)が、カナダのメソジスト教会婦人たちの祈りと経済的な支援を得て、婦人宣教師を送り出したその活動母体、WMSの海外活動の初穂であったこと。そして第二に女子教育と宣教の目的から学校設立が静岡(1887年)、山梨(1889年)でもなされ、今日まで継承されてきたこと。また第三に、女性の職業教育と幼児教育の必要性が、保育者養成と幼稚園の運営に具体的に結実したことである。それは本学の保育者養成の歴史の原点でもあり、まさに婦人宣教師がわが国の現状を見て最優先課題としたことであった。

かつて本学保育者養成の原点である上田保姆傳習所(1905年～1919年)の建造物(旧宣教師館)が現存すると聞いたのは短期大学保育科時代であった。そして当時の実習園であり隣接する梅花幼稚園(1900年創立)が創立100年を迎え、当時のままの園舎が今なお保育にもちいられているというニュースに接した時は、遙かな時代のかなたにあった本学の保育者養成の歴史がにわかには現実となって引き寄せられた感があった。さらに婦人宣教師たちが創設や保育にかかわってきた幼稚園・保育園の数々が長野、東京、山梨、静岡、そして北陸3県(石川県、福井県、富山県)に展開されその歴史をつたえていることを知り、多くの卒業生が保育者として遣わされていることも知りえたのである。

東洋英和の保育者養成教育につらなるものとして、当時の養成教育のこと、幼稚園でなされていたことを知りたい―宣教師の先生方はどんなことを学生に教え、子どもたちには何を教えたのか、保育はどんな様子だったのか―。次々うかぶ疑問を解きたいという思いから、手掛かりを求めて現地へ赴き、資料を収集するとともに、見て、聞いて、感じることを基本として計画を始めたのであった。

内容

- 内容構成は、大筋三つの方針を踏まえている。
- ① 現地調査、現地での資料収集、時代の証言としてのインタビュー
 - ② メソジスト教会関連研究、資料研究
 - ③ 来日カナダ・メソジストの婦人宣教師に関する活動について、その関連事業についての基礎データ作成

以下主に I の報告書(2005年)の紹介を記す。

— I の報告書 (2002-2004年) —

現地調査・現地での資料収集・インタビューを重点的に扱うことから始めて、今後の研究調査の基礎情報となるひな形を作り、後日加除訂正していけるデータ作成をめざした。

すでに、1990年代に北陸学院短期大学の見玉衣子教授らによる、北陸のキリスト教幼稚園にかかわっていた方々からの聞き書きの研究が先行してあり、方法論として参考にして始めることができた。かつて北陸の幼稚園をはじめ各地に保育者として遣わされた卒業生に協力をえて、宣教師について、保育についてなどの、インタビューや当時の記憶の寄稿集を作成。

メソジスト教会関連資料については、宣教師が本部に報告するレポート、宣教師の履歴書等の原資料となるものを求めて、伊勢紀美子氏とともにカナダに出張した。トロント、ヴィクトリアカレッジ内にある、カナダ合同教会文書館で資料収集。他にハリファックス、アトランティック神学校 (旧パインヒルカレッジ)、サックビルのマウントアリソン大学、マリタイム支部資料館などで、宣教師関連資料収集。

上述の国内・カナダでの収集資料を用いて、WMS派遣の個々の婦人宣教師一覧 (履歴、来日から離日までの間の活動内容)、WMS関連幼稚園の基礎情報一覧、WMS教育事業一覧等を作成。

— II の報告書 (2008年) —

- ・特別寄稿：「日本メソジスト教会 (カナダメソジスト) の農村厚生運動—信濃農村社会教区と上水教区を中心に」 (塩入隆氏 著書に『信州教育とキリスト教』、『東洋英和女学院百年史』共著・編)
- ・アメリカにおけるフレール受容に関する論文1件
- ・資料研究を通してWMSの活動の諸相 (教育、伝道、財務) を明らかにした論文3件
- ・J K U (日本幼稚園連盟) 年次報告書 (Annual Report of the Japan Kindergarten Union) よりWMS関連の翻訳 前篇 (元本学教授 芝恭子氏)
- ・現地調査 (身延線沿線幼稚園) 報告1件。その他

— III の報告書 (2009年) —

- ・J K U 年次報告書 (Annual Report of the



左から I (2002-2004年)、同書巻末の資料ページ、II (2008年)、III (2009年)

Japan Kindergarten Union) よりWMS関連の翻訳 後編 (芝恭子氏)

- ・資料研究を通してWMSの活動の諸相 (教育、財務) を明らかにした論文2件
- ・東洋英和女学院保育科の教育に関する卒業生の寄稿3件等。その他

意義・今後への期待

カナダ合同教会の文書館所蔵の資料による研究からは、カナダ・メソジスト婦人宣教師が他のアジアで展開した活動報告などを手掛かりに、比較検討ができる可能性をもっている。本校生涯学習センター講座で開かれていた「カナダ・日本文化交流史 (2006~2011 コーディネータ: 伊勢紀美子のち飯島千雍子)」や現在の「英和学入門 (2012、2013予定 コーディネータ: 飯島千雍子)」の開設などを通して様々な視点からカナダ・メソジスト研究へとつながっている。講座によって多くの方々の関心が寄せられ、参加協力のもとにあらたな試みが可能ではないかと考えている。また2010年に刊行された『カナダ婦人宣教師物語』作成時にはこの報告書は大いに活用された。

調査研究は今後も継続していく意向であるが、深められ、新資料となって活用されていくことを意義としたい。今年3月には続巻IVが刊行されたばかりである。

さらに、かつてのJKUを組織した婦人宣教師の方々の連携の響に倣って、各派の伝統を受け継ぐ幼児教育・保育者養成校の情報交換への契機となることも期待される。

(人間科学部保育子ども学科教授)

なお、入手希望の方は横浜キャンパス紀伊国屋ブックセンター (tel. 045-922-5007) または史料室にお問い合わせください。現在はIのみ実費 (700円) で販売しています。

〈思い出の先生がた〉25 飯田 泰造先生

飯田泰造先生がしてくださったこと

飯田泰造先生は短期大学保育科で絵画制作を担当されました。先生は学生に、幼児の絵画制作については出来上がりを評価するのではなく、子どもが描いているプロセスに目を留めることをはじめ、幼児の表現したい気持ちをくみ取れる思いを育てて下さいました。また幼児に視点を置きながら、学生がわくわくしてやりたくなる教材を準備し、ろうそく作りやパズル作りなど、学生が体験したことのないものを実に魅力的に提示して下さいました。

そして先生は、大学付属かえで幼稚園の設立から10年間、かえで幼稚園主事としても深く関わり、基礎を築いて下さいました。私が保育科の学生であった時に、先生は、一方では短期大学付属かえで幼稚園の開設に向けての準備をしておられたことに今あらためて驚かされます。幼児を知り尽くした飯田先生の考えが、40年たった今でも園舎の設計、置かれている家具、そして遊びの遊具のいたるところに生かされています。保育が豊かに、自由に工夫できるように考えられたものでした。また、子どもの遊び(生活)のひとつに木工活動を導入されたのも飯田先生でした。創立から40年間、かえで幼稚園の木工活動は途切れることなく続けられています。

1970年にスウェーデンに留学されていた時に芝恭子先生(当時の保育科教授)に宛てた手紙があります。「スウェーデンのゆったりとした時間の流れは日本の教育が(保育を含めて)先走って行くことへの制御剤になるには充分でした。ここに来て良かったことは、少なくとも、保育や一般教育(特に低学年)の中でもっと人間形成を重要視しなければならないと確認出来たことです。創造性を育てることや、美しいものに対する目や心をむけていくために、猶、啓蒙や願いがあると思われています。」

2006年の夏、私たちかえで幼稚園のスタッフは木工活動をしているスウェーデンの幼稚園を視察に行きました。8月5日、その地で飯田先生の訃報を耳にした私たちは、芝先生のハガキの住所を頼りに36年前に飯田先生が過ごされた場所を訪ねてみました。その古いミッションハ



飯田 泰造先生

ウスは美しい湖の見える、りんごの木のある芝生の向こうにありました。先生はこの美しい場所で日本の子どもたちと木工活動をするという構想をお持ちになったに違いありません。スウェーデンの生活に根づいた木工は、木の文化のある日本でも子どもたちにふさわしい活動であると考えられたのです。

飯田先生が始めて下さった、お父さんと共に働くワークは、現在に至るまで150回以上も続いています。「ワーク」は「はたらく」ことではありますが、それは「傍(ハツ)を楽」にすることであり、人のために喜んで仕えることだと、学院のスクールモットーである「敬神奉仕」をご自身の生き方を通して教えて下さいました。

飯田先生の、神への信仰に支えられた子どもを愛する思いとビジョンは、今もかえで幼稚園の教育の中で生きています。

文 森高 ホサナ

(大学付属かえで幼稚園 前園長)

飯田泰造(いいたたいぞう)先生

—略歴—

- 1919年12月29日 広島に生まれる
- 1941年 東京美術学校研究科
(現東京芸術大学大学院) 修了
- 後 東京文理科大学(現筑波大学) 専攻科修了
- 1970年 東洋英和女学院短期大学保育科教授に就任
(担当: 図画工作)
- 1973年~1982年 短期大学付属かえで幼稚園主事兼任
他に上の原幼稚園、青山学院大学(助教授)、草苑保育
専門学校等にも教鞭をとる
- 1985年 東洋英和女学院短期大学 退任
陶芸等の製作を続ける
- 2006年8月5日永眠(享年86歳)

- ・資料提供—山本香織小学部長へ 石井次郎元院長の資料
- ☆来室—秋葉明子元教諭 高等部卒業写真数点寄贈 (3月再訪)
- ・来室—1953年東洋英和幼稚園卒園生2名 同窓会準備のため、当時の写真を調査
- ・画像提供—小学部の歴史を感じさせるもの 小学部へ
- 3月・来室・調査—こども教育宝仙大学 菱田隆昭氏 梅花幼稚園および上田保母伝習所に関して
- ・作業—(卒業生ボランティア) 2名 書庫整理など
- ・来室/画像提供—ピアノ科と過去の主任 達丸山もと子氏、今泉真知子氏(ピアノ科)

主な受贈資料

- * 記念品 (ミニチュア校旗、記念バッジ、記念キーホルダー、レコード、新訳聖書など)
- * しおり・プログラム (1961年度野尻キャンプ/1964年度花の日特別礼拝・高三送別会など)
- * 写真 (第1回・3回カナダ学習旅行、長野彌先生、卒業式集合写真)
- * 東京オリンピック観戦チケット (1964年) 2枚、観戦のためのしおり
- * ラージ事件資料コピー (新聞記事・「英国公使夫人の見た明治日本」より) 多数
- * ミス・ジーン・マクドナルド関連資料 (「ロッキーの高き山を越えて」「楓の国から」他)
- * 「陽だまりのなかの春子さん」DVD・上演台本 (齋藤實生誕150年記念公演)
- * 「桜プロジェクト ありがとうを桜の木に託して」DVD, 「ToyoEiwa Jogakuin the 26th Christmas Concert」Blu-ray, DVD
- * 『東洋英和女学校五十年史』
- * 『英和の森の植物たち 感じる、遊ぶ、食べる』中池敏之 (元本学講師)・川崎末美 (本学教授) 著
- * 『少年少女のための聖書のおはなし』上・下 A・グロス著松尾芳子 (元短大英文科教授) 訳
- * 「American World Views through English」浜崎恒子 (元中高校教諭) 著
- * 『宣教師と日本人 明治キリスト教史における受容と変容』キリスト教史学会編 教文館
- * 「梅花幼稚園の歩み—見守られ・育まれて100年—」
- * 『Annual Report of the Japan Kindergarten Union』 1～7

- * 『アンの思い出の日々』上・下 モンゴメリ著 村岡美枝訳 新潮文庫
- * 『女学校と女学生 教養・たしなみ・モダン文化』稲垣恭子著 『ミッション・スクール あこがれの園』佐藤八寿子著 中公新書
- * 「三派合同による日本メソジスト教会の誕生」深町 正信著
- * 『日本基督教団 礎教会50年史』
- * *Torchbearer — Korean Woman's Odyssey Through a Life of Turbulence* by Chun ChangShin
- * 「旧伊藤伝右衛門邸」ガイドブック (柳原白蓮関連資料)
- * 「軽井沢ヴェイネット」Vol.109・110
- * (関西学院)「学院史編纂室便り」No.11～36、「関西学院のエスプリ」I・IIなど
- * 『目でみる女子学院の歴史 1870～2012』改訂新版
- * 「近代女子教育 新学制までの軌跡 学校要覧・認可申請書」フェリス女学院
- * 『キリスト教学校教育同盟百年史』年表
その他 他大学年史・紀要 等多数

主な移管資料

- * 製本史料「校務行事プリント」1957～1987 (欠あり)、「小学部だより」1958～1980、「学校要覧」1977～1989、「児童・保護者名簿」1936～1988 (欠あり)、スクラップブック「プログラム・案内状」綴1958～1983・1989～1994、スキー教室しおりなど 小学部より
- * 校歌・大学歌 (8 cmCD)、テレフォンカード、クリスマスカード 大学より
- * 『長野県町教会百年史』 局長室より

購入資料

- * 『キリスト教学校教育同盟百年史』
- * 英和マグカップ (mapmug 冬服・夏服版)

〈訂正とお詫び〉

- ・No.79 p.5 下から10行目
小林富子は寄宿舎に生徒と共に暮らしましたが、舎監の立場ではありませんでした。
- ・No.79 p.8 下から8行目
編集したのはパーシー・ブライス氏とミス・コンスタンス・チャペルの二人でした。

〈お知らせ〉

史料室では、学院の歴史や学生生活の様子を伝える資料、写真、記念品等を収集しています。ご家庭にあつてご不要のものがございましたら、ご寄贈いただけると幸いです。

お問合せ先は下記のとおりです。
東洋英和女学院史料室 (法人事務局内)
Tel 03-3583-3166 (直) Fax 03-3583-3329 (直)
E-mail : archive@toyoeiwa.ac.jp